特別
カ5
6005
4

以書翰致啓上候陳者客歳貴國
皇帝陛下ノ戴冠式ニ際シ帝國ヨリ派
遣シタル淺間高砂ノ二艦并ニ其司令
官伊集院少將以下ノ乘員ハ貴本國并
ニ沿路到處ノ貴國皇帝陛下御所領ノ
地方ニ於テ貴國文武諸官ヨリ異常ノ
優遇ト多大ノ便宜ヲ與ヘラレ候次第
ハ伊集院司令官ヨリ委曲稟申有之帝
國政府ニ於テ深ク感荷致居候儀ニ候
右ハ素ヨリ貴國當路各位ガ平素帝國

英國大使館

(4)
715
6005
4

ニ對シ抱持セラルヽ友情ニ基キ候ハ申スモ無之候得共取分ケ閣下ニ於テ我艦隊ノ派遣ニ際シ特ニ御配慮相成候次第ニ負フ處多キ儀ト相信候ニ付テハ前顯諸官憲ニ對シ我當該代表者ヲ經テ夫々謝辞ヲ呈スルト同時ニ先以テ茲ニ本大臣ヨリ閣下ノ好意ニ對シ帝國政府ノ名ニ於テ深厚ナル謝意ヲ表彰致度此段得貴意旁本大臣ハ重テ閣下ニ向テ茲ニ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十六年一月廿八日

外務大臣男爵小村壽太郎

大不列顛特命全權公使

サー、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

以書翰致啟上候陳者貴國臣民ドクトル、サミユエル、トーマス、ナグス氏帝國ニ於テ醫術開業ノ爲メ其筋ヘ免狀下付出願候處當該官廳ニ於テ同氏ノ資格ニ關シ本國ヘ問合ノ爲メ免許遲延相成候得共同氏ノ資格ニ關シテハ同氏ノ經歷上閣下ニ於テ保證セラレ得ヘキニ付速ニ同氏ヘ開業免狀下付相成候樣本大臣ノ斡旋御希望ノ旨客月二十七日附第十四號貴翰ヲ以テ御照

英國大使館

會ノ趣致敬承候仍テ其旨内務省ヘ及
照會候處右御来意ノ次第モ有之候ニ
付ナグス氏ノ資格問合ノ結果ヲ待タ
ス此際同氏ヘ醫術開業免狀授與ノ事
ニ致決定候趣今般同省ヨリ回答有之
候間右様御了承相成度此段拜答旁本
大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表
シ候敬具

明治三十六年三月二十四日

外務大臣男爵小村壽太郎

大不列顛特命全權公使

サー、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

英國大使館

以書翰致啓上候陳者英國人イービー
ジョーンス氏ヨリ元外國人居留地内
ノ永代借地讓渡ノ登記ヲ申請シタル
處神奈川縣廳ニ於テ該申請書ニ添附
セル英文讓渡證書ニ譯文ノ添附ナキ
ヲ以テ登記上ノ必要條件トシテ該譯
文等ノ提出ヲ要求シタルハ永代借地地
券ニ於テ認メサル所ノ一條件ヲ新ニ
附課シ以テ新條約第十八條規定ノ明
文ニ違背スルモノナリトノ御意見ニ

英國大使館

テ客月二十三日附十三號貴翰ヲ以テ
抗議御申出ノ趣了承致候
新條約實施ト同時ニ永代借地ニ關スル事項ハ當然地方廳ノ管理ニ歸シ候ニ付テハ本件ノ如ク讓渡ノ登記ノ申請ヲ受クルニ當リ其事實ヲ證明スルニ必要ナル書類カ外國語ヲ以テ認メアル場合ニ地方廳カ執務上ノ必要ニ因リ其譯文ノ添附ヲ要求スルハ至當ノ事ニ屬シ畢竟從來本件ニ關シ當該領事ノ為シタル取扱ガ新條約第十八條第四項ニ依リ日本官廳ノ取扱ニ歸シタル自然ノ結果ニ外ナラスシテ決シテ永代借地其物ニ新ナル條件ヲ附課シタルモノニ無之候ニ付本件ニ關スル閣下御抗議ノ趣旨ハ乍遺憾本大臣ノ同意ヲ表スル能ハサル所ニ有之候
右回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

英國大使館

明治三十六年四月八日

外務大臣男爵 小村壽太郎

大不列顛特命全權公使

サー、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

英國大使館

將校若ハ其他ノ人カ發明ヲ為シ日本政府之ヲ採用シタル場合ニ對スル報酬問題ノ件本月四日附ヲ以テ御問合之趣了承右ハ將校其他ノ官吏カ軍需品ノ發明ヲ為シ之ヲ當省ニ於テ採用シタル場合其成績顯著ナル者ニ對シテハ特ニ敍勳並賜金セラルルノ慣例ニ有之候尤モ其發明ニシテ重大ナラサルモノニ就テハ積年ノ勤勞中ニ此ノ功績ヲ加ヘテ敍勳セラルルノ例ニ

英國大使館

有之候又官職ニ在ラサル者ノ發明等
ニ對シ其功著大ナルトキハ相當ノ勲
等ニ議敍セラルルノ内則規定有之候
此段及御答候也

明治三十六年六月九日

陸軍大臣寺内正毅

英國特命全權公使
サトクロード、マクドナルド閣下

以書翰致啓上候陳者客月二十四日付
第五十五號貴翰ヲ以テ濠洲「ニユー、サ
ウスウエールス」州高等法院ヨリ帝國
大審院ヘ宛タル囑託書壹通御封入ノ
上英國外務大臣ノ訓令ニ依リ其轉達
方御依賴ノ趣閲悉致候
右ニ就テハ早速關係官廳ニ照會ニ及
置候處右ノ如キ共助ニ關シテハ帝國
ノ法律ニ其規定ナキノミナラス日英
兩國間ニ於テモ何等ノ條約無之今日

英國大使館

ニ在リテハ帝國裁判所ニ於テ斯ル囑託ニ應シ得ルノ權限ヲ有セサル趣回答有之候間乍遺憾右樣御承知相成度就テハ該囑託書ハ茲ニ及返戻候間御查收相成度候

右回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十六年十月十二日　外務大臣男爵小村壽太郎

大不列顛特命全權大使サー、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

英國大使館

以書翰致啓上候陳者貴國海軍大將「サー、サイプリアン、アーサー、ジョージ、ブリッヂ」閣下ハ日英同盟協約成立以來支那艦隊司令官トシテ東洋ニ在リ協約ニ伴フ彼我海軍交涉上常ニ英國海軍ヲ代表シテ樞機ノ衝ニ當リ終始我ニ對シテ其誠意ヲ披瀝シテ我稗益ヲ圖リ因テ以テ帝國海軍ニ對シ效シタル功績顯著ナルニヨリ勳一等旭日章下賜ノ奏請致度ト存シ同大將カ該勳

英國大使館

章受領允許ニ關シ豫カシメ貴公使閣下ニ照會シ貴公使閣下ヨリ貴國皇帝陛下ノ優渥ナル御裁可有之タル旨ノ御通知ニ接シタルヲ以テ早速奏請方取計置候處今般該勲章下賜ノ御沙汰有之候然ルニ外國勲章ノ佩用ニ關スル貴國ノ現行條令ニ據レハ一定ノ場合ヲ除クノ外ハ之カ佩用ヲ允許セサル規定ニ相成居候趣ニ有之候處同大將ノ功績ハ前記ノ通リ特ニ顯著ナルモノニ付貴國皇帝陛下ノ特別ナル思召ヲ以テ同大將カ総テノ場合ニ於テモ該勲章ヲ佩用シ得ラレ候様可然御斡旋ノ程希望ノ至リニ不堪候右御依頼旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十六年十一月十三日

外務大臣男爵 小村壽太郎

大不列顛特命全權公使サー、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

英國大使館

覺書

帝國ニ輸入スル印度製産品ニ對シ課税上最惠國ノ待遇ヲ得以テ帝國ト印度間ノ通商交通ヲ増進スルノ目的ヲ以テ簡單ニシテ且ツ暫定ノ性質ヲ有スル協約締結ノ件ニ關スル英國公使館ノ去ル八月十二日付覺書ニ就テハ帝國外務省ハ關係官廳ニ移牒シテ協議熟考スル所アリタリ

印度ト貿易上ノ關係ヲ増進スルハ素

ヨリ帝國政府ノ希望スル所ナリ此目的ヲ以テ日英両國間ニ協約ヲ締結スルニ就テハ帝國政府ハ印度政府請求ノ如ク帝國ニ輸入ノ印度製産品ニ對シ最恵國ノ待遇ヲ與フルコトヲ承諾スヘキニ付其交換條件トシテ帝國政府ハ印度ニ輸入スル左記七種ノ帝國製産品ニ對スル税率ヲ從價百分ノ二半ニ輕減スルコトノ承諾ヲ得ムコトヲ希望ス

英國大使館

絹織物　絹製品　燐寸　樟腦

銅精粗共　紙巻烟草　綿莫大小製品及綿布製品

尚ホ右協約ノ有效期限ニ就テハ帝國政府ハ先ツ之ヲ批准交換後二ヶ年ト定メムコトヲ希望ス但シ満期ニ至リ締約國双方ノ合意ニヨリ之ヲ延長シ得ルコト、スルハ異議ナキ所ナリ

本件ノ參考トシテ前記英國公使館覺書ニ添附アリタル英佛間ノ協約騰本ハ請求ノ如ク茲ニ封入返送ス

英國大使館

明治三十六年十一月二十六日

英國大使館

覺書

帝國外務省ハ本年十一月五日付製茶輸出獎勵金使用方ニ關スル英國公使館ヨリノ覺書ヲ入手シ其旨ヲ領セリ

右獎勵金トハ帝國政府カ明治三十年度以前ニ於テ同年以降七ヶ年間継續シテ毎年金七萬圓宛全國茶業組合ノ組織ニ係ル中央會議所ヘ交付スル補助金ヲ意味スルモノト考ヘラル

該補助金ニ就テハ其事業及豫算決算

英國大使館

共農商務大臣ノ監督ヲ受ケ居ルモ別ニ公表ノ必要ヲ認メサルニ付曽テ其手續ヲ取ラス

而シテ該中央會議所ハ我製茶ノ最大需要者タル北米合衆國及加奈太人ニ對シ純良ノ製茶ヲ供給シ販路ノ擴張ヲ圖ル為メ組合ヲシテ數萬圓ノ製造改良費ヲ支出セシメ且ツ自ラ費用ヲ投シテ輸出検査ヲ行ヒ尚且各國需要者ノ嗜好ニ適スル製産ヲ催進センカ為メ右両國ノ重ナル市場ニハ出張所ヲ設ケテ常ニ調査ニ従事セシメ其ノ他歐洲各國ニハ時々人ヲ特派シテ需要地ノ實況ヲ調査報告セシメ之ニヨリテ内地生産ノ改良ヲ計リ外ハ内外人ヲ問ハス輸出業全体ノ利益ヲ増進センコトヲ努メタリ

右補助金ハ以上ノ事業ニ要スル費途ノ一部ニ充用スルモノナリ

尚同奨励金ハ本年度限リ消滅ニ歸ス

ヘキモノタルコトヲ附記ス

明治三十六年十二月二十一日

外務省

英國大使館

以書翰致啓上候陳者貴國政府ノ訓令ニ基キ本月十七日附第十號貴翰ヲ以テ貴國陸軍省動員及諜報局總監陸軍中將「サー、ウヰリアム、ニコルソン」氏我軍隊ニ從軍ノ目的ヲ以テ目下本邦ニ向ケ來航中ノ趣及ヒ現ニ本邦ニ於テ語學研習中ノ大尉「ゲート」「ヴインセント」「ジヤーデイン」及「サー、エー、バンナーマン」ノ四氏ヲ併ヒタル若干ノ選抜士官從軍中同中將ノ指揮ノ下ニ置カル

英國大使館

ヘキ旨並ニ貴國公使館附武官陸軍中佐「ヒユーム」氏及ヒ前記四名ノ貴國士官ニ對シテ從軍ノ許可ヲ得ラレ度旨御照會相成致敬承候右ハ早速陸軍大臣ヘ及移牒置候處同大臣ニ於テハ欣ンテ右ノ御來意ニ應スヘク尚爾餘ノ貴國士官ノ從軍ニ關シテモ「ニコルソン」中將來着ノ上出來得ル限リ便宜ノ御取計可致尤モ陸軍省ニ於テハ軍事行動ニ關スル必要上從軍外國武官ハ

英國大使館

可成少數ナルヲ希望シ現ニ諸外國政府ニ對シテハ公使館附武官ヲ併テ三名又ハ四名ヲ限リ希望ニ應スルノ方針ニ有之候モ貴國政府トハ特別ノ關係有之候ニ付通シテ十名迄御求メニ應シ候間貴國政府ニ於テモ前陳ノ事情ヲ察セラレ右ノ員數ニ止メラレ度旨同大臣ヨリ回答有之候條右樣御承知相成度此段回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

英國大使館

明治三十七年二月二十日
外務大臣男爵小村壽太郎

大不列顛特命全權公使
サー、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

英國大使館

以書翰致啓上候陳者戰時禁制品ヲ搭載スル貴國船舶拿捕ノ場合ニ於ケル通知ノ義ニ關シ本月二十日附貴翰ヲ以テ御申越ノ趣致敬承候右通知ノ義ハ帝國政府ニ於テ欣然應諾致候所ニ有之候ニ付今後萬一貴國船舶ノ帝國軍艦ノ爲メ拿捕セラルヽ場合有之候ハヽ直チニ帝國海軍省ヨリ當省ニ通報スヘキコトニ打合置候間當省ニ於テ右通報接受次第早速貴館迄御通知

英國大使館

可致候此段回答旁々本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十七年二月二十五日

外務大臣男爵 小村壽太郎

大不列顛特命全權公使

サー、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

英國大使館

以書翰致啓上候陳者外國裁判所ヨリ證人訊問ノ囑託ニ關シ帝國ノ法律ニ其規定ナク又日英間ニ何等協約モ無之ヲ以テ帝國ニ在ル外國領事官カ委員トシテ英國裁判所ニ於テ審判中ニ係ル事件ノ為メ貴國臣民帝國臣民其他外國臣民ニ供證セシムルコトニ付帝國政府ニ異存無之ヤ否ヤニ關シ去一月十六日付第四號公信ヲ以テ御照會ノ趣了承致候

英國大使館

帝國ノ版圖内ニ於テ外國領事官ノ證人訊問ヲ為スコトハ證人ノ其所屬國臣民タルト否トニ拘ラス帝國政府ノ承認致難キ義ニ有之候間右様御了承相成度尤モ帝國裁判所ニ於テ外國裁判所ノ囑託ニ應シ代テ帝國内ニ在ル證人ヲ訊問スルコトニ付テハ目下關係官廳ニ於テ審議中ニ有之候間此段申添候右回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

英國大使館

明治三十七年三月三日

外務大臣男爵小村壽太郎

大不列顛特命全權公使

サトクロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

英國大使館

以書翰致啓上候陳者今般帝國政府ニ於テ千八百九十九年七月二十九日海牙ニ於テ調印セラレタル陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約ニ基キ俘虜情報局ヲ開設シ本年勅令第四拾四號ヲ以テ右ニ關スル規定ヲ設ケ既ニ其事務ヲ開始致候處同條約附屬規則中同局ヨリ發送スル郵便物並ニ俘虜ノ發受スル書狀、郵便爲替、有價物及小包郵便物ハ郵税免除ノ特典ヲ有ス可ク俘虜ニ

英國大使館

外國大使館

究テタル贈與及救恤現品モ諸税及國有鐵道ノ運賃ヲ免除セラル可シトノ規定ニ基キ本年逓信省令第拾參號及第拾四號ヲ以テ俘虜郵便規則及俘虜郵便爲替規則ヲ制定シ且國有鐵道運賃免除ノ手續モ之ヲ公示致候間右御承知相成度此段御通知旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十七年三月十三日　外務大臣男爵小村壽太郎

大不列顛特命全權公使サー、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

以書翰致啓上候陳者戰地ニ於ケル外國從軍記者ノ電報發送方ニ關シ本月十九日附第二十四號貴翰ヲ以テ御申越ノ趣致敬承候右ハ早速大本營ヘ及照會置候處戰地ニ於ケル電線ハ概シテ單線ニ過キサルヲ以テ軍事上必要ノ命令報告等ニ在リテモ止ムヲ得ス嚴格ナル制限ヲ設ケ發着信ヲ取締居候次第ニ付軍事通信所ヲシテ外國從事記者ノ新聞電報及私報ヲ發受セシ

ムル義ハ其日本文ナルト外國文ナルトヲ問ハス乍遺憾之ヲ承認致難キ趣並ニ外國從軍記者ニ於テ長崎下關等其ノ便宜ト思考スル海外電報取扱電信官署所在地ニ豫メ取次人ヲ定メ置キ戰地ヨリ電信文ヲ軍事郵便ニ託シテ右取次人ニ送付シ同人ヲシテ之ヲ發電セシムル事便宜ト被存候趣今回大本營ヨリ回答有之候間右樣御承知相成度此段回答旁本大臣ハ茲ニ重テ

英國大使館

閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十七年三月二十九日

外務大臣男爵小村壽太郎

大不列顛特命全權公使

サー、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

英國大使館

拝啓陳者去十五日附御書面拝讀仕候御申越相成候電車運轉手取締方ニ付テハ從来夫々注意ヲ加ヘ居候得共今回更ニ心得違ノ者無之樣嚴重監督可致旨電氣鐵道會社ニ命令致置候尚同時ニ所轄警察署長ニ對シ充分取締ヲ為スヘキ旨訓令致置候間今後右樣ノ如キ不都合無之事ト存候右御承知被下度此段御報得貴意候敬具

明治三十七年四月廿二日

英國大使館

英國大使館

英國大使館

警視總監 安立綱之

英国公使マクドナルド閣下

追テ電氣鐵道會社ニ於テハ爾今參謀本部附近ニ特ニ監督員ヲ派シ一層注意可致旨申出候ニ付為念此段申添候

以書翰致啓上候陳者帝國陸海軍被服購入契約申込期間ノ件ニ關シ本月七日付第四七號貴信ヲ以テ御問合ノ趣致敬承候右ハ早速陸海軍兩大臣ヘ及照會候處陸軍所要ノ被服ハ主トシテ官業製作ニヨリ縱令民間ノ供給ヲ仰クモ會計法ニヨリ隨意契約ヲ以テ購入シ官報又ハ新聞紙ニ廣告シテ入札ニ附スルモノハ殆ト無之其僅ニ公告ニ附スル場合ニ於テモ會計規則ニヨ

英國大使館

リ七日乃至十五日ノ期間ヲ與フルモノニシテ歐洲ヨリ申込ヲ為スノ餘日ナカルヘキ旨陸軍大臣ヨリ回答有之候海軍大臣ヨリモ亦タ略ホ同様ノ回答有之候間右様御了承相成度此段回答旁々本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十七年五月二十一日

外務大臣男爵小村壽太郎

大不列顛特命全權公使サー、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

英國大使館

拜啓陳者本月下旬横須賀軍港ヲ出發シ呉佐世保兩軍港及戰地附近ニ回航ノ上往復凡一ヶ月間ノ豫定ヲ以テ再ヒ横須賀軍港ヘ歸着スヘキ船便有之候ニ就キ本邦駐在外國公使館附海軍武官ニシテ希望ノ向キハ右便乘差閊無之旨海軍大臣ヨリ照會有之候間貴館附海軍武官ニシテ御希望有之候ハヽ其旨速ニ御通知相成度尤モ右ノ便船ハ拿捕船舶ノ内元露國東清鐵道會社

英國大使館

英國大使館

所有流船「マンチユリヤ」號ヲ使用スヘキ筈ニ付該船ニ關スル航海上ノ經驗モ極メテ淺キ義ニ有之特ニ戰地附近ニハ各種ノ危險物モ浮遊シ居ル有樣ナルニヨリ自然本船ニ如何ナル不虞ノ變災ナキヲ保シ難ク候ニ付此點ニ關シテハ便乘者ニ於テ豫テ御覺悟アリタキ旨併テ同大臣ヨリ申越有之候間右ノ趣御承知ノ上何分御申出相成候樣致度將又本船出發ノ時日ハ大凡ソ本月三十日ノ見込ニ候得共尚確定ノ上更ニ可及御通知此段得貴意候敬具

明治三十七年五月二十五日

外務大臣男爵小村壽太郎

大不列顛特命全權公使

サー、クロード、マツクスウエル、マクドナルド閣下

英國大使館

以書翰致啓上候陳者煙草專賣法第二條ノ實施期日ニ關シ本月六日付第七五號貴翰ヲ以テ御來示之趣幷ニ同件ニ關シ七月一日以前ニ注文ヲ為シタル製造煙草ハ兎ニ角其輸入ヲ許可セラレ度旨翌七日第七七號貴翰之趣了承致候右ハ早速大藏大臣ニ移牒致置候處今般同大臣ヨリ煙草專賣法ノ實施期日ハ七月一日ニシテ同日以後ハ同法第二條ニ依リ政府ノ命ヲ受ケタ

英國大使館

英國大使館

ル者又ハ同法第卅一條及第卅二條ノ標本煙草自用ニ供スル製造煙草ニ限リ九月三十日迄ハ舊税率ニ依ル輸入税ヲ十月一日以後ハ新税率ニ依ル輸入税ヲ納付シ輸入ヲ為シ得ル義ニ有之尤モ煙草專賣法發布以前ノ積出ニ係ルモノ又ハ該法施行前ニ本邦ニ到着ノ見込ヲ以テ積出シタルモノニシテ運送中故障ノ為メ遲延シ施行後ニ至リ本邦ニ到着シタル場合ノ如キハ輸入者ニ於テ困難ノ事情モ可有之ニ付右證明アルモノニ限リ本人ノ希望ニヨリ政府ニ於テ定メタル價格ヲ以テ買入ヲ為スコトモ可有之候條買上ヲ希望スル者有之候ハヽ至急煙草專賣局ヘ其種類數量及輸入港等申出ツヘキ様本人ヘ注意方取計ハレ度旨回答有之候條右様御了承ノ上貴國當業者ヘ可然御注意ヲ與ヘラレ候様冀望致候

英國大使館

英國大使館

右回答旁本大臣ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十七年八月十一日

外務大臣男爵小村壽太郎

大不列顛特命全權公使

サー、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

英國大使館

以書翰致啓上候陳者客歳中英商コーンス商會輸入ニ係ル綿織物品課税方ニ付貴我ノ間ニ往復ヲ重ネタル事件ニ關連シ「マンチエスター」工業學校ヨリ提出シタル雲齋布類別ニ關スル定義ヲ掲ケ帝國政府ニ於テ關税賦課上ノ標準トシテ之ヲ採用スルノ意アルヤヲ確カムベキ旨貴國外務大臣ノ訓令ニ接シタル趣ニテ去ル十月二十二日附第一〇〇號貴翰ヲ以テ御申越之

英國大使館

次第了承致候仍テ早速右之趣大藏大臣ニ移牒致置候處同大臣ハ篤ト該定義ノ適否ニ關シ本邦輸入ノ織物ニ就キ調査ヲ遂ケタルニ四枚ノ綾織ニシテ縦絲ノ四分ノ三布面ニ顯ハレ即チ「マンチエスター」工業學校ヨリ提出シタル雲齋布ノ定義ニ適合セサルモノニシテ我輸入税表適用上雲齋布トシテ課税セラレ且商業上ニ於テモ一般ニ雲齋布トシテ取引セラルヽモノ有

英國大使館

之故ニ若シ「マンチエスター」工業學校ノ提出シタル雲齋布ノ定義ヲ採用スルトキハ從來帝國ノ輸入税表適用上雲齋布ト認メラレ普通商業上ニ於テモ亦雲齋布トシテ取引セラルヽモノモ之ヲ除外シ又雲齋布ニアラザル織物モ雲齋布トシテ課税セザルベカラザルニ至ル義ニ付「マンチエスター」工業學校ノ定義ハ遺憾ナカラ帝國ノ輸入税表ニ於ケル雲齋布ノ定義トシテ

英國大使館

採用シ得ザル次第ニ有之候旨同大臣
ヨリ回答ニ接シ候ニ付右樣御了承相
成度候
右回答旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ
向ヒ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十七年十二月二日

外務大臣男爵小村壽太郎

大不列顛特命全權公使
サー、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

英國大使館

以書翰致啓上候陳者露國驅逐艦ブル
ヌイ號ノ乘組員ヲ香港ヨリ上海ニ移
シ清國政府監督ノ下ニ同地ニ之ヲ抑
留シ置キ度シトノ露國政府ノ申出ニ
關シ本月五日付第百七號貴柬ヲ以テ
御申越ノ趣致敬承候然ルニ從來清國
政府カ其領土内ニ抑留セル露艦ノ乘
組員ニ對シテ施セル所ノ監督ハ不十
分ニシテ帝國政府ハ為メニ不安ノ念
ヲ感スルコト尠ナカラズ現ニ過日モ

英國大使館

「レシテルヌイ」號艦長上海附近ニ於テ逃亡ヲ企テ清國官憲ハ遂ニ之ヲ防遏スルコトヲ得サリシガ如キ實例モ有之候樣ノ次第ニ付「ブルヌイ」號ノ乘組員ハ引續キ貴國領土内ニ抑留相成候樣致度不勝希望候此段回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候
敬具

明治三十七年十二月八日

外務大臣男爵小村壽太郎

大不顛特命全權公使
サー、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

英國大使館

第十九

以書翰致啓上候陳者露國驅逐艦ブルヌイ號ノ乘組員ヲ香港ヨリ上海ニ移シ清國政府監督ノ下ニ同地ニ之ヲ抑留シ置キ度シトノ露國政府ノ申出ニ關シ本月五日付第百七號貴柬ヲ以テ御申越ノ趣致敬承候然ルニ從来清國政府カ其領土内ニ抑留セル露艦ノ乘組員ニ對シテ施セル所ノ監督ハ不十分ニシテ帝國政府ハ爲メニ不安ノ念ヲ感スルコト尠ナカラス現ニ過日モ

「レシテルヌイ」號艦長上海附近ニ於テ逃亡ヲ企テ清國官憲ハ遂ニ之ヲ防遏スルコトヲ得サリシカ如キ實例モ有之候樣ノ次第ニ付「ブルヌイ」號ノ乘組員ハ引續キ貴國領土内ニ抑留相成候樣致度不勝希望候此段回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十七年十二月八日

外務大臣男爵小村壽太郎

大不列顛特命全權公使サトクロード、マツクスウエル、マクドナルド閣下

英國大使館

以書翰致啓上候陳者ベーリング海膃肭獸保護ノ件ニ關シ時局ノ進行上密獵者輩出セントノ憂慮ニ基キ現狀視察ノ爲貴國政府ヨリ派遣セラレタル砲艦「アルジエリン」號艦長「エユーゼント」大佐カ巡邏中邂逅相成タル日本船舶ニ關スル報告書ニ基キ客年十月二十三日付第一〇一號貴翰ヲ以テ御通報ノ趣逐一致査閲候右貴翰ノ趣ニ據レハ帝國船舶ハ猶ホ膃肭獸獵ニ從

英國大使館

事シ居ルモノト相見ヘ候間吏ニ關係官廳ト協議ノ上一層嚴重ノ訓戒ヲ加フル筈ニ有之候貴翰中特ニ事態重大ナルモノトシテ御揭記相成候「トラ」丸ノ件ニ關シテハ直ニ農商務大臣ニ移牒シ詳細ナル事實ノ調査ヲ依賴シ置タル處「トラ」丸ハ客年六月十九日函館港ヲ出帆シ「コンマンドルスキー」島附近ニ於テ獵業ニ從事中濃霧稍晴レタルニ同船ヲ距ル二三海里附近ニ巡洋艦一隻黒烟ヲ吐キ同船ニ向テ航走シ來ルヲ認メ露國軍艦ナリト誤信シ非常手段トシテ英國々旗ヲ揭揚シ船尾ノ國籍及船名ヲ塗抹シ無稽ナル「コロンビヤ」「ウヰクセン」ナル文字ヲ白ペンキニテ塗記シタルニ後ニ其接近セル軍艦ノ「アルゼリン」號ナルコト判明シ其儘同艦長ノ質問ニ應シタルモノニシテ全ク敵艦ノ拿捕擊沈ヲ免カレンカ爲メノ所爲ニ有之又「キンセイ」丸（第

英國大使館

二金勢丸）ハ客年六月六日函館港ヲ出帆シ右「トラ丸」ト同樣「コンマンドルスキー」島附近ニ於テ獵業從事中遠カニ黒烟ヲ認メタルニ付例年ノ如ク露國軍艦ノ警備ト信シ其拿捕撃沈ニ遭フヲ避クルカ爲メ「コロンビヤ」ト塗記シ萬一ノ危變ニ處スルノ途ヲ講シ英國々旗ヲ掲揚セントシタルニ接近シタル軍艦ハ英國軍艦ナルコトヲ覺リシヲ以テ之ヲ掲揚スルニ及ハスシテ同軍艦ヨリ臨檢ヲ受ケタルモノナリシ旨今般農商務大臣ヨリ調査ノ結果報告有之候間右樣御承知相成度候貴翰最後ニ在浦潮斯德「シユウエーブ」「コムプトン」英國商會ノ住宅兼店舗ヘ闖入シタル者ノ嫌疑者トシテ「ナハウ」丸乘組員ヲ掲記相成候ヘトモ同船ノ國籍不詳ナルノミナラス事刑事裁判上ノ問題ニ係リ證據集收ノ端緒ヲ得難キニ付乍遺憾調査ヲ爲スノ途無之候

英國大使館

右御回報旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十八年三月二十五日

外務大臣男爵小村壽太郎

大不列顛特命全權公使

サー、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

第三十一

拜啓陳者本邦ヨリ石炭輸出取締ノ義ニ關シ貴翰御來示ノ趣ニ付テハ本日御面話申候次第モ有之候處其後「アルドヴワ」及「コーニングビー」兩船ニ付テハ海軍省ニ問合候得共同省ニ於テ今日迄何等承知セサル趣ニ有之候尚今般相定メ候石炭輸出取締條規ハ別記ノ通ニ有之候間御含迄茲ニ申添候敬具

明治三十八年五月三十日

外務次官珍田捨巳

公使館書記官　バークレー貴下

英國大使館

拜啓陳者旅順ニ於テ露國傷病兵ヲ收容セル帝國病院ノ設備並ニ其取扱方等ノ義ニ就キ客月十五日附貴翰ヲ以テ貴國外務大臣「ランスダウン」侯ヨリ閣下ニ宛テラレタル電報ノ摘要相添ヘ御内示ノ趣拜謝致候右ハ早速陸軍大臣ヘ及移牒置候處同大臣ニ於テハ直ニ掛官ニ注意シ事實取調方ヲ命シ候趣ニテ開城當初ハ彼我混雜ヲ極メ一時ニ多數ノ傷病兵ヲ引受ケタルノ

英國大使館

ミナラス言語不通習慣不同等ノ爲メ細事ニ至ル迄毫モ不行屆ノ點ナカリシトハ言ヒ難キモ帝國軍隊ニ於テハ其救護ニ關シ苦心慘憺日夜經營セシヲ以テ露國衛生部員等モ皆我取扱ニ滿足致候趣別紙電報寫之通旅順要塞司令官ヨリ報告有之候旨回答有之候ニ付右様御承知ノ上貴國外務大臣閣下ヘ回報方可然御取計相成候様致度此段爲念得貴意候敬具

明治三十八年六月五日

外務大臣男爵 小村壽太郎

大不列顛特命全權公使

サトクロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

英國大使館

Endorsement No 21

一、荷送人又ハ荷受人ハ輸出セムトスル石炭價格ノ二倍ニ相當スル保證金ヲ其積込前ニ輸出地ノ税關ニ提供スヘシ

本項ノ保證金ハ税關ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ保證状ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得但シ税關ニ於テ必要ト認メタルトキハ保證状ニ對シ適當ノ保證人ヲ定メシムルコトヲ得

英國大使館

英國大使館

二、荷送人又ハ荷受人ハ當該石炭カ仕向地ニ於テ陸揚ヲ了シタルコトノ所在日本領事(日本領事ナキトキハ輸出地税關ノ指定スル官憲)ノ證明書ヲ税關ニ提出シ税關ハ其妥當ナルコトヲ認定シタル後保證金又ハ保證狀ヲ返還スヘシ但シ輸出後六十日ヲ經ルモ證明書ヲ提出セサルトキハ保證金ヲ官沒シ又ハ保證狀ニ掲ケタル金額ヲ徴收スヘシ

英國大使館

三、敵國艦船ノ現ニ在泊シ若ハ遠カラス來泊スト認メラルヘキ地方ヲ仕向地若ハ寄航地トスルモノハ輸出ヲ禁スルコトアルヘシ
本項ノ認定ハ海軍省ニ於テ之ヲ爲スヘシ

英國大使館

拜啓陳者在神奈川縣下逸見村貴國人「ウイリヤム、アダムス」氏墳墓發掘ノ際同所ニ於テ發見セラレタル銅片鑑定方ノ義ニ就キ五月二十九日附貴翰ヲ以テ御申越ノ趣文部大臣ヘ及移牒置候處今般同大臣ヨリ右ハ東京帝國大學教授理學博士坪井正五郎ヲシテ鑑定セシメタル處同教授ノ鑑定ニヨレハ該銅片ハ佛像ノ臺座ナル蓮辧ノ一破片ニシテ墓碑ノ附近ヨリ出テタリ

英國大使館

トスルモ土中ニ收ムヘキ性質ノモノニアラサルニ付或ハ曾テ金佛ノ此處ニ安置シアリタルコトアリテ其臺座ナル蓮瓣ノ破片地下ニ埋沒セシモノ今回墳墓發堀ニ際シ偶然發見セラレタルモノナルヘク尚右銅片ハ近世ノ製作ニ屬シ然程古キ物トハ認メラレザル趣回答有之候間右樣御承知相成度該銅片添附此段回答申進候敬具

明治三十八年九月二日

桂外務大臣

大不列顛特命全權公使閣下

英國大使館

以書翰致啓上候陳者本月十七日付第一二二號貴翰ヲ以テ貴國
皇帝陛下ハ閣下ヲ本月一日ヨリ我
皇帝陛下ノ下ニ駐劄スル特命大使トシテ御任命アラセラレタル旨ノ電報ランスダウン侯ヨリ御接到相成候趣御通知相成同時ニ一千八百十五年六月九日ノ維也納會議條約所屬規程第四條ニ依リ帝國政府ニ於テ閣下ノ任命御通知ノ當日即本月十七日ヨリ起

英國大使館

テ閣下ヲ大使ト公認アランヿヲ御請求相成委曲致承悉候閣下カ帝國駐劄大使ニ任命セラレタルコトハ曩ニ貴國官報ニ由テ發表セラレタル際林子爵ヨリ報告有之今又閣下ヨリ公然ノ御通知ニ接スルニ於テ帝國政府ハ閣下御信任状ノ到着及之カ捧呈ニ先チ茲ニ豫メ閣下ヲ帝國駐劄大使ト承認スルニ躊躇セサル儀ニ有之候

閣下御信任状ハ本月九日ヲ以テ英京ヨリ發送セラレタル旨御通知ノ趣モ致了承候該御信任状到着ノ上右捧呈ノ爲メ我

皇帝陛下ニ謁見ノ儀ハ更ニ閣下ト御協議ノ上取計可申候閣下カ今回享ケラレタル高大ナル名譽ニ對シテハ本大臣茲ニ熱誠ナル祝意ヲ表シ申候

本大臣ハ此機ニ附シ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十八年十一月二十五日

外務大臣伯爵桂太郎

大不列顛國大使
サトクラウド、エム、マクドナルド閣下

以書翰致啓上候陳者在香港「シーワン」トームス商會ニ於テ石炭輸送ノ為傭入タル汽船ハタス號外一隻カ本年五月門司港ニ於テ一時石炭ノ積入ヲ禁止セラレタルニ由リ同商會ニ於テ被リタル損失ノ補償ニ関シ同商會提出ノ覺書相添客月十四日貴翰ヲ以テ御申越之趣閲悉致候

然ルニ右ニ関シテハ前記商會カ其傭入ニ係ル船舶ヲ以テ石炭ヲ輸出セン

トシタル當時ハ恰モ露國「ボールチック」艦隊カ佛領印度ニ於ル假根據地ヲ出發シテ北上ノ途ニ就キタル際ニシテ「ボールチック」艦隊ハ其ノ佛領印度ニ到着セル前後ニ於テ各地ニ於ケル石炭ヲ買収シテ之ヲ艦隊所在地ニ輸送スルニ努メタリシコトハ當時明白ノ事實ナリシニ依リ帝國政府ニ於テハ交戰ノ必要上帝國ヨリ輸出セラルヽ船舶用ノ石炭ニシテ敵艦隊ニ仕向ケラレ又ハ其手ニ陷ルノ虞アリト認メラルヽモノハ總テ一時之カ輸出ヲ禁止スルコトヽ決定シタル次第ニシテ前記商會傭船等カ一時石炭ノ輸出ヲ禁止セラレタルモ亦之カ結果ニ外ナラサリシ義ニ有之候尤モ其後在香港帝國領事ヨリノ電報モアリ旁同商會ニ於テ必要ノ保證金ヲ提供スルニ於テハ右等船舶ノ輸出カ善意ニ出テタルコト自テ分明スヘキニ依リ右ノ條件

英國大使館
英國大使館

ヲ以テ石炭ノ輸出ヲ許可シタル次第ニ有之候尚前記商會ノ申立ニ依レハ同商會ノ傭船ニ限リテ石炭積入ノ許可ヲ得ス爲ニ莫大ノ不便ト失費ヲ蒙リタルカ如ク見ルモ右ハ同商會ニ於テ事實ヲ誤解シ居ルコト、信セラレ候帝國政府ニ於テハ當時船舶ニ供セラルヘキ石炭ヲ香港方面又ハ其南方ニ輸出セムトスルモノハ其單ニ自船ノ航海用ニ供スル爲之ヲ搭載シタルモノヲ除キ總テ同一ノ方法ニ依リ之ヲ禁止シタル次第ニ有之候尤モ帝國政府ニ於テハ性質劣等ニシテ船舶用ニ供シ得ヘカラサル石炭ハ之カ輸出ヲ禁止セサリシニ付前記商會ノ申立ハ或ハ此邊ノ事實ノ誤解ニ出テシカト推測セラレ候

要スルニ「シーワントームス」商會傭入船舶ニ對スル帝國官憲ノ處分ハ前陳ノ事情ノ下ニ於テハ當時實際止ムヲ

得サリシノミナラス畢竟戰時ニ於ケル國家非常權ノ行使ニ外ナラサル義ニ有之候ニ付帝國政府ハ乍遺憾前記商會ノ提出ニ係ル損失補償ノ要求ニ同意致兼候間右様御了知相成度此段回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十八年十二月二十一日

外務大臣伯爵　桂　太郎

大不列顛大使サー、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

英國大使館

い61536

JAPANESE DESPATCHES

STUDENTS' COURSE

VOL. IV

British Embassy
Tokyo.
Jan. 1922